



# 東京掛中・掛西同窓会 東京冀北会会報



# 東京冀北

第28号  
平成28年11月

## 第27回東京冀北会総会・懇親会会計報告 (平成27年11月21日)

出席者	員 106名 (学生・講師6名含む)
来賓	5名 (黒田淳之助同窓会長他4名)
計	111名

収入の部		
会費 一般	7,000円×100名	700,000 円
年会費学生	3,000円×2名	6,000 円
当日年会費	3,000円×77名	231,000 円
祝儀	掛川西高校長、同窓会会長、静岡冀北会他	37,000 円
計 (A)		974,000 円

支出の部		
会場・懇親会費 (サンミ高松・看板費含む)	550,692 円	
諸経費 (ボタ、景品、花束、来賓土産、等)	35,088 円	
計 (B)		585,780 円

差収入 (A) 974,000 - (B) 585,780 = 388,220 円  
(余剰金388,220円は一般会計に繰り入れ)

寄贈品 赤岩覚様 (高10)、竹原繁男様 (高16)  
門元久代様 (高25)

平成27年11月22日  
東京冀北会事務局長 山村十吉

## 平成27年度東京冀北会収支報告 平成27年4月1日～平成28年3月31日

(収入) 前年度繰越金	136,663
年会費 (郵便振替分)	456,000 (152名)
〃 (銀行振込分)	21,000 (7名)
〃 (現金納入分)	240,000 (80名)
総会・懇親会参加費	700,000 (100名)
幹事会費 (7/8)	125,000 (25名)
雑収入 (祝儀・預金利息)	37,019
収入合計	1,715,682 円 (A)

(支出) 印刷費 (案内状、会報)	295,540
総会通知郵送料	112,914 (1,337通)
総会返信後納費	21,239 (317通)※1
総会・懇親会費 (幹事会費)	585,780
通信費 (郵送費等)	140,400※2
事務費 (事務用品等)	49,406
振替手数料	23,704
支出合計	1,342
支出合計	1,230,325 円 (B)

(収支残高) (A - B) = 485,357 円 (次年度繰越金)  
※1: 総会出欠はがき返信料受取人払い。  
※2: 幹事会は個人負担  
資金管理 みずほ銀行勝田台支店 479,268 円  
現金 6,089 円  
計 485,357 円

会計監査 橋本和久 (高19回卒) 永井治宏 (高32回卒)

前執行部からの贈り物  
一年が経ちます。最初に、うれしく思い、かつ、会員の皆さんとも共有しておきたいことを二つ報告させていただきます。  
一つは、財政的にかなり安定した形で引き継ぎができたことです。昨年の総会で承認を頂いた決算では、繰越金がわずかで、そのままでは次の総会や会報の準備が心配な状況でした。しかし、中山紀子前会長(名誉会長・高十四回卒)をはじめとする前執行部と事務局が、総会の会場費をぎりぎりまで交渉し、かつ、会員への案内の発送のための封筒詰めを自前で行うなどの節約により、昨年の総会が終わった時点では、財務内容はかなり改善されていました。卒業生で初めて人間国宝となられた大角幸枝さん(高十六回卒)が講演をしてくれて、例年よりも多くの会員が総会に参加してくれたことも収益の改善に寄与しています。結果として、本年の活動に關して、財務的には心配しないで計画を立てることができている状態を引き継ぐことができました。有難うございました。  
もう一つは、若手会員の参加です。昨年の総会でも高三十八回卒の皆さんが十数名のグループで参加をしてくれま



会長 鈴木正具  
高十九回卒

した。また、東京冀北会のホームページ(会報末尾参照)を通じて活動を知らしめ、連絡を頂けるといふ現象も見られるようになってきています。また、幹事年に当たった学年も、積極的に協力してくれています。これらも、中山前会長の力で、若手に積極的に呼び掛けを行った成果だと思えます。この動きを途絶えさせることなく、かつ少しずつでも前進させながら活動の輪を広げて行くことが、重要だと考えております。  
一年に一度だけ総会で顔を合わせるだけというのではなく、年に何回かは何かの形で会員が集まる会にできないか、できれば任期中にそれが実現できたらいきたいです。例えば、ゴルフ、会、名所や話のスポットを探索する会、地元のお酒を楽しむ会、等々、掛川中学・掛川西高出身という共通の体験を有する同好の仲間と交歓できる場を設定できればと考えています。岡本甲子男初代会長(中三十八回卒)が当会の発足に当たり会長を引き受けられた際、東京冀北会が未永く継続できるように、発足から二十年が経過し、平成十年に、



第27回東京冀北会 総会・懇親会

リオデジャネイロオリンピックが閉会し、いろいろな競技種目で日本選手が活躍があり、大いに盛り上がりつつありますが、特に私が一番関心のある種目の競泳では、金メダル二、銀メダル二、銅メダル三個と予想通りの好成績を収めた。  
小学生のころから水泳が好きで、小学校六年生の時のローマオリンピックでの、自由形 山中毅、平泳ぎ 大崎剛彦、背泳 田中聡子選手等の活躍はよく覚えている。



副会長 田口幸男  
高十九回卒

## 六十八歳の夢

当会の設立にも尽力された石川嘉延(現掛川西高等学校同窓会長)を囲んでの座談会で、石川知事は、「次の十年もちゃんと続けたい、もう東京冀北会も伝統うんぬんを言えるようになる、そうすれば先行き安泰。それまで頑張らねば。」と発言されている。「東京冀北」第十号。その意味で、当会も伝統を語るべき安泰期に入った訳ですが、これまでの活動に少したくでも有意義な活動を加えて、無事に次の執行部に引き継ぐことができると願っています。役員一同、頑張つてまいる所存であり、ですので、会員の皆様のご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

## 《松ヶ岡プロジェクト》in 掛川市

十王区にある江戸時代の掛川藩の御用商人山崎家の住宅。江戸末期の豪商の屋敷構をほぼ原型のままに残し、明治天皇の行在所でもあった歴史的建築物である。「掛川銀行」の設立等郷土の社会経済の近代化に多大な貢献をした8代目千三郎、東京帝国大学教授として「金融論、貨幣論の先駆者」として人々に影響を与えた甥の覚次郎を輩出した家として、文化財としての評価も高いといえる。



平成24年12月、市が購入し、翌年4月には市民による「松ヶ岡保存活用検討委員会」が立ち上がり、歴史的建造物、文化財を後世に残し、市民が集う、文化の拠点として修復・復元に向けて検討が進められている。

(掛川市ホームページ参照)

校歌  
作詞 藤井金吾  
作曲 嶋福寿  
一、岩根こぎしき天守台  
その麓にぞわが校は  
基定めて遂川の  
栄え行くこそ樂しけれ  
二、雨降り嵐すさぶとも  
指してや行かむ小笠山  
希望の懸を射るまでは  
めげず携まず崩折れず  
六、やがてまことの功を  
挙げは栄ゆる百錦  
飾りて花の色そへよ  
大和鳥根の山桜

東京きほく会 検索

ホームページ (「東京きほく」で検索)  
『東京掛中・掛川西高校同窓会 東京冀北会』  
<http://www.tokyo-kihokukai.com/>



発行日 平成28年11月12日  
発行者 鈴木正具  
発行 東京冀北会

《編集後記》  
長期に渡り当会の事務の仕事に一手に担われていた山崎進元事務局長から引き継ぎを受け、今年には新メンバーによる体制の下、パワフルな高二十六回生幹事達を中心に、着々と準備が進められてきました。  
活動に参加し、故郷掛川、そして同窓生の情報に触れる機会が増え、パラリンピックのメダリストをはじめ、脚本家、能楽師等々それぞれの分野で生き生きと活躍をされている方々がいることを知りました。  
先輩後輩の皆様との交流は楽しい時間です。同窓生というだけで初対面でも感じてしまう安心感とは、掛川ののどかな景色の共有があるからでしょうか。  
能楽普及に努める若手の能楽師、能楽の醍醐味に惹かれ練習を続けられている大先輩と、共に寄稿を頂き、そして四年前に当会で講演された、彫刻家で能面師でもある水谷靖さん(二十二回卒)と、何か不思議な繋がりを感じます。東京冀北会「能楽を楽しむ会」なんてできたらいいですね。  
先日、掛川城公園に行つて参りました。昨年六月にオープンしたスタンドグラス美術館は、高六回卒の鈴木政昭さんのコレクションの寄贈によるものです。松ヶ岡プロジェクトをはじめ情緒ある街づくりに尽力されている地元の、そして同窓生の方たちに感謝です。(日記)

また、掛川西高に入学した一九六四年の東京オリンピックの日本競泳陣は、男子八〇〇m自由形リレーの銀メダル一個に終わったが、米国の男子自由形ドン・シヨランダ、オーストラリアの女子自由形 ドーン・フレーザの活躍など、大いに興奮してテレビに嘔り付いていた。

しかし、中学、高校を通じて自分自身が競泳水泳をやるという意識は殆ど無かった。その私が三十九歳の時、毎日のように酒を飲んで夜遅く家に帰る生活を少し変えようと思いつき、通勤途中にあった高田馬場のスイミングクラブに入会し、週一度の練習をするようになった。入会当時は、それまでの不慣れが祟って週一回、一時間の練習がとてもきつく長続きはしないな、と思っていたが、入会後一年近くたった時、スクールのコーチからマスターズ水泳競技会という大会があるけれども参加してみないかと誘いを受けた。同じスクールで何人かの仲間もエントリーしていたので、あまり深く考えずに出場してみた。

結果は、各種目とも想像以上に競技者のタイムが早く惨憺たる成績だったが競技会は楽しかった。

因みに、マスターズ競技会とは、年齢を五歳間隔で年齢区分を設けて、その年齢区分内で競う競技会である。また、日本マスターズ水泳協会の公認大会には元オリンピック選手も出場するほどのレベルの高い競技会もある。

マスターズ競技会に出場するようになってスクールも週二回に増やしたりタイムも少しずつ良くなってきた四十六歳の時、スクール仲間の勧めで一五〇〇m自由形の大会にエントリーした。練習で

は長い距離を泳ぐことはなかなかできないので、完泳できるか大変不安だったが、何とか三四分台で完泳でき、おおいに達成感に浸った。これがきっかけとなり競技種目の重点を短距離から長距離に変え、年一回のこの大会に、仕事の都合で出場できなかった一回を除き、昨年まで毎回出場している。

泳ぐ目標タイムも、初回の三四分台から何とか三〇分を切るように練習を重ね、三年前の六十五歳の時、初めて二分五〇秒九一と三〇分を切ることできた。二分九分台のタイムは、六十五歳区(六十五歳〜六十九歳)の全国レベルから見ると下から数えたほうが早いタイムではあるが、他の競技者とは比較せず、ひたすら自己ベストを目指し、今年も二分三〇秒を目標にエントリーする予定だ。

そして今、六十八歳にして最高の夢は、九十歳区分で一五〇〇mを制限タイム内で完泳する事である。

この夢を叶えるべく、目標に向かつて今後も練習に励んで行きたいと思っている。



常盤 敏時  
高十回卒

### 「謡」を趣味として

加齢で厚い本を読むのが、大義になった。寝床では、何かを読む事になっている。

が、最近では、軽い随筆が多くなった。久世光彦、多田富雄、須賀敦子等、名手のエッセイを読むと雑念が洗われる。

#### 一、浅見真州師「謡」の師

多田富雄(二〇一〇年四月死去、享年七十六歳)は著名な免疫学者で文化功労者、且つ能作家である。今年四月彼の創作能「生死(しようじ)の川・高瀬川考」が国立能楽堂で、斯界の大家 観世流浅見真州(まさくに)師のシテ役で上演され、復活能として評判になった。

実は七年前から、一寸した切っ掛けで、能楽の謡を、浅見真州師から指導を受けている。師は厳しい。予習復習は欠かせない。仕事人にとっては時間の遣り繰りがきつい。しかし意欲があれば、数年で謡の余韻を楽しむようになる。

#### 二、佐渡と世阿弥

師の生徒六人の技術向上の為、年一回合宿する。今年七回目、七月最初の週末に佐渡に渡った。佐渡は、能楽の大成者、世阿弥が、足利義教將軍によって、一四三四年、七十二歳で配流された地である。

彼は島民に能を懸命に伝授した。島民も唯一の娯楽として、能を覚え繋いで来た。以来五十八年余、能はこの島に深く根付き、ピーク時には、島内に二百以上の能舞台があったと言う。今も三十余も存在する。しかも、今なお島民によって、年中能が演じられている。こんな地を、私は他に知らない。

#### 三、奈良・興福寺

謡との係わりで忘れられないのは興

福寺である。興福寺では、二〇一八年の完成に向けて、江戸時代に焼失した中金堂(ちゆうこんどう)の再建工事が進行中である。この工事の勸進能が毎年七月国立能楽堂で開催されて十四年になる。七年前知人に誘われてこの勸進能を観に行った。内容はまったく理解できなかったが、その時、興福寺の貫首から、謡の稽古に誘われた。「怖いもの見たさ」の心理で、今観たばかりの芸術に対する好奇心が、不意に背中を押し、まったく縁のなかった能の謡に填まることになった。

思えば奥の深い日本芸能に、首を突っ込んだものだ。近時この好奇心が益々膨らんで来た。仕事を卒業したら、以前とまったく違う趣味を持ちたいと思っていたが、正に、自然にそんな趣味に踏み込んだのは、偶然の幸運としか言いようがない。

### バナナのたたき売りで人生楽しく

大石 武郎

高十四回卒

えっ、あの一見真面目そうな大石さんがバナナたたき売り？ 昔の私をご存じの方は冗談だろうと言います。

私の勤務先の先輩が定年退職後、九州での幼い時に覚えたバナナたたき売りをやりたいが手伝ってくれないかと頼みこまれたのがきっかけで、ちよつとならと首を突っ込んで早や五年になりました。



その歴史は大正時代、バナナは台湾から日本(主に門司港)に船で運ばれてきたものの、荷崩れや潮濡れなどで一部品質劣化の損品が発生しました。それを保険処理の一環として、いち早く売りさばくためにトラックへ積み、人の集まるちよつとした広場でたたき売り、投げ売りとして処理するのが一番よい方法でした。

さてと、たたき売りの口上ですが、「男はつらいよ」のフーテンの寅さんは、映画のどこかで本やおもちやなどをたたき売っているシーンがあります。あのよくな調子のよい口調でおこないますが、寅さんはバナナたたき売りはしておりません。

まずは人を寄せるためのギャグを連発します。「男は度胸で、女は愛きよう、坊さんお経で、漬物ラッキョウ・・・」など。大勢集まってきたところで、バナナや物の数え方のお勉強の時間です。

ここからがたたき売りの世界に入ります。まずはバナナの因縁話をバナナチャン節に乗せて手拍子よろしく歌いあげます。「バナナチャン因縁聞かそうか、生まれは台湾タイチユンの、阿里山麓片田舎、美人の娘に育てられ・・・」、お客が興に乗ってきたところで「売り切れ御免の早い者勝ちだよ。カネカネカネ



寺田 泰昭  
高二十五回卒

### 仕事時々趣味

の世の中で、坊さんお経も金次第、・・・人に貸す金あったなら、このバナナチャン買いたせ、てなさいさいそらまけて、はい、五百円から・・・五百高けりや四百円・・・と売り始め、買ってくれた人をほめたええです。一回の実演は二十五分、ひと房十五本ほどついた七百円ぐらいのバナナを並べ、二百円ぐらいまで下げて売るので大赤字。ポランテアとはいえ年金暮らしには応えませぬ。

会場はいろんなイベント会社が私たちのFacebookを見て申し込んできます。なかでも一番の思い出し、葛飾柴又の寅さん記念館でのたたき売りです。観光パスがつくたびにたたき始めるのですが、口上を述べている最中にパスが出る、時間がないから早く売ってくれと矢の催促。

今年の実績は初場所中の両国国技館横、東京タワーブルーライトイベント、代々木八幡金魚まつり、上野池の端隅外荘などです。朗報は社会人女性落語家二人が弟子入りしてきたことです、めずらしい女唄師として売りに出そうとしております。あなたもやってみませんか？ ちなみに、妻からは住まいの市内だけはやらないようにとキツク釘を刺されております。

母校掛川西高を卒業して四十三年になります。掛西を卒業して東京の大学に進み、卒業後に就職した会社(AV機器メーカー)に四十年在籍しています。一昨年六十歳で定年となりましたが、その後も嘱託として勤務しています。仕事と趣味を両立させてなるべくのんびり暮らすことをモットーにしてきました。

在職四十年になるこの会社にはオーディオが好きで入社しました。私の学生時代はオーディオブームでも私もこの時期オーディオ趣味にはまっていた。しかし私は入社後、ホームオーディオやレーザードイスの部門ではなく、車載機器(カーオーディオ)の営業、マーケティング部門に配属されました。私は入社後最初のボーナスを頭金にして新車を購入したのですが、社会人になり趣味にクルマが加わったことで、車載機器のマーケティングは趣味にも通ずる仕事になりました。

会社は一九九〇年にGPSを使用したカーナビゲーションシステムを世界初で市販するのですが、この開発過程はその後、NHKのプロジェクトXに取り上げられました。この頃三十歳台半ばの私はこの開発プロジェクトチームのメンバーとして充実した仕事をしていました。カーナビゲーションの開発導入時期は、帰宅時間が午前〇時を回ってしまいう毎日でしたが、当時の私は何も苦になりませんでした。

その後私は、四十歳前から宣伝/セールスプロモーションのマネージャーをしていましたが、バブル期の余韻が色濃く残るこの時期の宣伝部門は華やかで、毎日が忙しいけれど何かうきうきした気分でした。



一九九〇年台前半のこの時期、自動車レースの最高峰F1が大ブームでしたが、会社は宣伝の一環として、名門フェラーリF1チームのスポンサーをしていました。

私は宣伝の仕事で各地のF1サーキットに行きましたが、特に印象に残るのは、華麗なF1の世界にあって、ひとときわ絢爛豪華なモナコGPです。

一週間のモノコ滞在中、TV放送の中心継で日本から一緒に行ったテレビ局のプロデューサーやタレント達との毎晩の交流は楽しく、仕事とはいえ、東京にいる同僚や部下、さらに家で待つ家族に申し訳ないように感じたことを覚えております。

その後日本でバブルがはじけた頃に、私の仕事は生産系のサブライチエンマナージメントを担う「生販」という言葉までとは全く畑違いのものに変わりました。最初は不安がありましたが、この仕事をしておかげで、世界各地の生産拠点に出張する機会が増えました。当時の海外生産拠点は、北米、欧州、東南アジア、中国などで、こうした地域、国に行けるのは仕事とはいえ楽しいことでした。

話題の新作映画は国内公開前にJALの機内で見ると出張が多かったの

## 前期掛川中学初代教頭 林惟純 小伝



三谷 充弘  
高二十六回卒

ですが、出張先の国々では、仕事の合間には現地駐在員達と彼らがお勧めのおいしい料理を食べ歩きました。そうこうして、うちに五十歳を超え、この頃から会社員人生にも先が見えてきました。私はこれ幸いとばかり、これからは仕事は程々にして趣味と健康づくりを充実させようと、乗り物の趣味を車からスポーツサイクルに転換しました。

自転車では、北は北海道の礼文島、利尻島から、南は沖縄県の日本最南端の有人島である波照間島まで自転車を持って行って走っています。

そんな自転車趣味が、五十歳代半ばからまたしても仕事とつながってしまいました。

社内ベンチャービジネスとして、自転車レースのプロ選手やアマチュアレーサーのための特殊なペダリング計測装置を開発・製品化して販売することになりました。

私はマーケティングの担当としてこの新規事業に取り組みることになったのです。お陰様で現在では、プロチームやトップサイクルアスリートに信頼され使用される製品に育ちました。

仕事ですから当然苦しいことや嫌なことはありましたが、私は楽しく趣味をやるような感覚で仕事をやってこられたことが、とても幸運であったと思っています。

近頃は、そろそろ完全に会社員を引退して、沖縄の石垣島あたりで、好きな自転車と、海ではシュノーケルを楽しむという暮らしを一年のうち一、二か月はできるようにしたいなと思いはじめています。早くこの夢を叶えたいと思っています。

屏もな  
い小さめ  
の入り口  
は、牛と  
ヤギの糞  
だらけの  
広場から  
何の境も  
なく家の  
中の土間  
へと繋が  
っていた  
ので靴の



まま入ろうとすると、「靴は脱いで」との事。気付いてみると、住人は入り口で擦り減ったゴム草履を脱ぎ、裸足で立っていた。「これは靴下が汚れるな」とと詰まらない心配をしつつ、靴を手に一歩を踏み入れた。

家の中は自分の想像とは全く異なっていた空間で、昼にも関わらず真っ暗、光は瓦の隙間から僅かに漏れてくるのみ、目が暗さに慣れても日本人の私には薄っすらとしか様子を窺う事ができない。そして、何より驚いたのは、その窓もない真っ暗な空間は予想に反し、「アレ？」と思うほど涼しかったことだった。「この空気感、以前どこかで・・・」と、次の瞬間頭に浮かんだのは洞窟であった。「そう言えば入り口で目にした地面から生えている様な、そして、不必要な程分厚い土の壁。恐らくあの土の壁で断熱性を高め、窓を一切設けてないのは外からの強い輻射熱を断つ為。更に家の中を全て土間にしているのは・・・」と、家の外での想像と、家の中に入って五感に伝わる情報とのギャップを自分なりの理屈で埋めながら、「この家の住人は存外快適な暮らしをしているのかもしれない

会津では極めて評判が悪い)を匿った後、明治五年に西伊豆の謹申学舎の塾長の職を幹旋したが、此処は奇しくも掛川藩の江奈陣屋跡である(掛川藩は西伊豆に約七千石の領地を持っていた)。

なお大野原の戦の直後、西郷頼母の母・妻・娘・妹、その一族二十一名は自刃して果てたが、妻の千恵子(八重の桜)で宮崎美子が演じた人物)は飯沼貞吉の叔母にあたる。

林は明治六、七年に富士宮の浅間神社の宮司をした後、明治十三年に掛川中学校の教頭となるが、同僚の英語教師、黒川正の回想によると「林君は教場で一寸怒る癖はあったが、学力は十分以上であった。その勤儉力行は到底、尋常人の及ばぬ所があった」とのことである。

黒川は下総国関宿藩の佐幕派家老の嫡男で、父が上野の戦で敗走したため一家離散の憂き目を見た人物だが、林の経歴は知らなかったようである。

その後、明治十七年には静岡県御用掛判任となるが、これは当時、静岡県令となっていた関口隆吉(旧幕臣で山岡鉄舟の盟友。隆吉の祖父はお櫃納め)で有名な浜岡の池宮神社の宮司であること引きよるものだろう。内閣官報局の「職員録」で見ると、明治二十六年までは有度安倍郡の戸長・村長となっていた。また明治二十二年ごろ、冀北学舎・前期掛川中学の漢学教師だった大村有終・堀内政治郎らが掛川で結成した蕩々会に、南摩綱紀(会津藩士。三島中洲・重野安綱と共に明治三大漢学者と呼ばれる)が参加しているのは林の紹介によるものではないだろうか。

林は明治二十八年に東京府芝区の正則中学校漢学教授となった後、明治二十九年三月三十一日に没した。享年



蓮永寺 山門

## 悔るなかれ、『土の家』



清水 靖弘  
高二十六回卒

何年前か前、仕事で訪れたインドの、まだ電気もない集落の『土の家』が、今でも強く印象に残っているのでご紹介しします。

その村に行った時は日本の真夏以上の暑さだったが空気は乾いていた。何世代も前から殆ど変わってないと思われる佇まいで、屋根には瓦こそ並んでいないが窓もない『土の家』が集まっていた。現地アソシエイツも同行していたこともあり、その中の一軒を拝見するという貴重な体験をした。「この暑さで窓もない家の中は相当暑いだろうな。窓くらい付ければ良いのに・・・」と、勝手な思いを巡らせつつ皆の後に従った。

い。やはり、外観や先入観で判断してはいけない・・・と、自戒と、その『土の家』に畏敬の念すら抱きつつ歩を進めた。ベッドルームが四つ程と穀物倉庫を備えたその家を通り案内してもらい裏口に出て更に驚いたのは、あれだけ土の上を歩いて来たというのに足の裏が殆ど汚れていなかった事だった。土の床がきれいに掃き清められている事は足の裏から伝わり、住人の精神性の高さを感じてはいたが、それにしても土の上を靴下で歩いて来たというのに・・・凄過ぎる！悔るなかれ、『土の家』である。

## 変り者の同窓生



嶽本 (旧姓平尾)  
あゆ美  
高三十七回卒

冀北会の皆様、初めまして。嶽本(だけもと)と申します。川崎市在住です。武蔵野音大を卒業し、劇団四季を経て現在はフリーの舞台脚本家をしています。同窓会の大先輩に、劇団青年座の演出家・故鈴木完一郎さんがいらっしゃいます。私はデビュー作品を劇団青年座が上演して下さった縁もあり、後輩ということで随分と応援頂きました。同窓会の方にも観劇にいらして頂くなど有り難かったです。

オペラ歌手の榛葉昌寛君や中村華子



さんが居ます。あの頃、我が道を行く同級生がとても多く、先生方もユニークで独特な方が目立っていた記憶があります。今でも西高時代で吸収した事が仕事でとても役立っていることに感謝しています。忘れられない思い出の一つに、入学してすぐの応援練習や新聞委員の合宿があります。委員会なのになら何故か担当教諭が合宿で西高の歴史、主に七十年代を熱く語って下さいました。正直、ちんぷんかんぷんでしたが、四半世紀も過ぎて加藤登紀子さん原作「青い月のパレード」を舞台化した際にはとても役に立ちました。

私の脚本は社会派と呼ばれ、地方の話が多いです。一昨年は熊本県川辺川ダム問題を描いた「ダム」で文化庁芸術祭優秀賞を頂きました。取材で球磨川の相良村に行った時、こちらの相良が歴史的に同地に関係あるということなどに驚きました。

## 伝統を作るといふ事

シテ方観世流能楽師



長谷川 晴彦  
高三十九回卒

皆さんは「謡初め(うたいぞめ)」という正月行事をご存知でしょうか。これは江戸城で正月三日に行われていた武家にとって大切な行事で、將軍の前に諸大名が年初の挨拶に参城して、その前で能が披露されるというものなのですが、その時に居並ぶ順序が各家の序列を現すということで、重要視されていました。起源は徳川家康が浜松城で催したものに遡るそうで、武家にとっての能楽の位置付けを知ることが出来ます。



能楽は  
ユネスコ  
の無形文  
化遺産に  
他の伝統  
芸能に先  
んじて認  
定された  
世界に誇  
る伝統芸  
能です。  
能の代表  
的作者で  
あり演者  
であった世阿弥が足利義満の前で初め  
て能を演じたのが一三七四年。六百五  
十年に及んで演じ続けられてきたとい  
う歴史の重みと高度な精神文化の結晶と  
しての価値は他で代えることは出来ま  
せん。

しかし実際には定期的に能楽堂に足  
を運んだり、謡や仕舞を楽しむような能  
楽愛好者は漸減しています。様々な原因  
は考えられるのですが、一つとして武家  
文化に因むような古くからの生活習慣  
が日常から消えている事に起因してい  
るように思います。インターネットで世  
界が繋がりが、物の流れ、人の交流の仕  
方も大きく変化している現代において、日  
本ならではの考え方や生活スタイルと  
いうのが薄まっていくのは仕方の無い  
事なのかもしれません。  
しかし、何とか伝統文化を伝えていき  
たいと思います。  
そこで、明年正月三日に掛川城御殿に  
おいて「謡初め」を催すことと致しまし  
た。武家文化のシンボルでもある掛川城  
で、能を体験し、知ってもらいたい。プ  
ロの演技の他、当日参加者向けのワー  
ク

シヨップや市民参加での謡の披露など  
を考えています。きっと他では無い引き  
締まった正月の時間を演出出来ること  
と思います。  
伝統芸能が永く伝わるには、時代に合  
った変化も必要なのです。能も長い歴  
史の中でテキストは変わらない乍ら、大  
きく上演時間が変わるなど様々な変化  
が見られます。決して娯楽性の強くない  
能楽ですが、皆さんに永く愛してもらえ  
るよう努力して行きたいと思ってお  
ります。

**祝！リオ・パラリンピック**

**山本篤さん**  
(高五十三回卒)  
銀メダル 走り幅跳び  
**銅メダル**  
四×一〇〇mリレー

**岡村 正弘さん**  
(高四十一回卒)  
銅メダル 陸上マラソン

先般行われましたリオデジャネイ  
ロパラリンピックにて、山本篤さん  
が走り幅跳びで銀メダル、四百メー  
トルリレーで銅メダル、岡村正弘さ  
んが陸上男子マラソンで銅メダルを  
それぞれ獲得されました。同窓生一  
同お祝い申し上げます。

**訃報**

- 山本 格治 中三十回卒 (二〇一六年二月逝去)
- 片田 政雄 中三十六回卒 (二〇一六年五月逝去)
- 堀池 有 中四十一回卒 (二〇一六年八月逝去)
- 松浦 勝男 高二回卒 (二〇一六年三月逝去)
- 藤代 佳一 高三回卒 (二〇一六年五月逝去)
- 鈴木 彰 高四回卒 (二〇一六年五月逝去)
- 永田 尹 高四回卒 (二〇一六年七月逝去)
- 神谷 潔 高八回卒 (二〇一六年四月逝去)
- 角皆 静男 高九回卒 (二〇一五年十二月逝去)
- 富岡 眞智子 高十回卒 (二〇一六年九月逝去)
- 安藤 敏郎 高十二回卒 (二〇一五年十二月逝去)
- 速藤 直子 高十九回卒 (二〇一六年六月逝去)

**東京冀北通信**

**川合 睦** 中四十四回卒  
地域で麻雀などやっています。日に一  
度ゴルフに行きます。少し頭がふら  
ふらします。二〇二〇年の東京オリンピ  
ックを見たいと思っています。

**石田 武** 中四十四回卒  
お陰様で元気で兄(中三十九回)とも  
ども毎月二回ゴルフプレーを楽しんで  
おります。

**大石 忠生** 高二回卒  
八十五歳になりましたが、平日はまだ  
執務をし、休みにはゴルフを楽しんでい  
ます。

**平野 孝** 高二回卒  
大学のクラスメート(日大美術科・S  
三十一回卒)と年一回グループ展をやっ  
ております。

**杉本 和雄** 高三回卒  
保育園のボランティアをしています。  
(掛中へ入学したのは終戦の年でした。  
自転車通学でした。)

**伊藤 聡之** 高四回卒  
元気に釣り(白キス釣り)をしており  
ます。ホームグラウンドは対馬です。四  
十余年続いております。

**塩崎 武良** 高七回卒  
最近のテレビ報道はおかしいなどと  
夫婦二人で議論することが多くなりま  
した。会話は老化防止に役立つと思  
いからです。

**大井 敏子** 高九回卒  
本年六月まで西新宿で夫と二人だけ  
の税理士事務所を開いておりましたが、  
閉めました。ラッシュの乗り物ときよな  
らして本当にやれやれと思う昨今です。

**鈴木 智** 高十回卒  
昨年、ほとんどあの世に行っていた大  
病を患い、毎日リハビリに励んでいます。  
何とか復活したと思っています。

**村田 繁** 高十回卒  
喜寿。「憶れて通へば千里が一里」  
もはや過ぎ去りし日かな。

**後藤 芳春** 高十一回卒  
昨年、四人兄弟姉妹の兄(掛西)、  
姉(掛女)を次々に亡くし、残るは私と  
妹(掛西)。何かにつけ故郷を想う最近  
です。

**鈴木 安彦** 高十二回卒  
今年、後期高齢者入りとなりました  
が、現在も勤務中で当日も出席出来ませ  
ん。皆様にはよろしくお伝えください。

**逸見 伸夫** 高十二回卒  
地域のボランティアで毎日を通りし  
ております。

**栗倉 健二** 高十三回卒  
ご盛会と皆様のご健康をお祈りしま  
す。小生、一般社団法人日本歌曲振興会  
で作詩をしています。サミュエル・ウル  
マンの「青春」の詩について正式使用許  
可を持って、HPとブログをアップして  
おります。

**福田 美代子** 高十四回卒  
田舎(山の中)暮らし由、年を重ねる  
ごとに町に出るのが大変と感ずるよう  
になりました。又々欠席ですが、皆様の  
ご健康を心より祈っております。

**松本 幾代** 高十六回卒  
主人がまだ現役として働いているた  
め、又、家族もそれぞれ離れているため、  
家族の間を行き来し年をとって、す  
っかりおばあさんです。

**2015年東京冀北会同総会**

第27回東京冀北会 総会・懇親会